

# エレガントな世界をデザイン —クリスチャン・ディオールの戦後—

(株)日本設備工業新聞社  
代表取締役社長 高倉克也



クリスチャン・ディオール

ファッションはクリスチャン・ディオール(1905-1957)によって近代的なビジネスに転化した。遅咲きのディオールは第2次世界大戦後に41歳で自分の店を構え、満を持して最初のコレクションを発表する。これがニュー

ルックと呼ばれて世界的にメガヒットし、戦後ファッション界の頂点に君臨するきっかけとなった。

ディオールは女性のモード革命を実現することによってパリをファッションの牙城として再興し、戦後という新たな時代の扉を開いた。戦後70年にあたって社会・経済・文化の復興の歩みを象徴するディオールに焦点をあててみよう。

## 画廊経営の失敗で方向転換

ディオールはフランス北西部のグランヴィルで肥料の生産を営む裕福な家庭に生まれた。美術の道を志していたものの、外交官を希望する両親の

すすめでパリ政治学院に進学する。同校は大統領のミッテランやシラクを輩出したエリート養成校だった。

学生時代はほとんど勉強せず、卒業後は猛反対する両親を振り切って友人と画廊の経営を始める。可愛い息子のために父も渋々と出資した。

シュールリアリズム(超現実主義)に傾倒したディオールは店にピカソの絵を飾ったり、ユニークな発想の展覧会を開いたりして経営に成功する。ところが1929年の大恐慌の煽りを受けて収益は急速に悪化し、1931年にギャラリーの閉鎖に追い込まれる。家は差し押さえられ、頼みの綱の父も破産した。

不遇の時期にディオールはデッサン画の修練を積み、ファッション・デザインの仕事を請け負うようになった。何とかデザイナーとして認められはじめたころ、1939年に勃発した第2次世界大戦で徴兵される。

1942年、ようやく復員してパリに戻ったディオールはヒトラーによるフランス占領下でナチスの高官や協力者のフランス婦人のドレスをデザインして生き延びた。レジスタンスに加わっていた妹のキャサリンはゲシュタポに逮捕され、1945年の終戦まで強制収容所に拘束された。

先の見えない不安な日々のなかで彼はいつのまにか40歳になっていた。

## 運命を変えたニュールック

転機は繊維王の異名をもつマルセル・ブサックとの出会いで訪れた。ディオールは熱心にデザイナーとしてのビジョンを語り、大富豪の出資を取りつけることに成功する。

1946年の冬、パリでクリスチャン・ディオール・オートクチュール・メゾンを設立。注文を受けて高級婦人服を仕立てる念願の第1号店をオープンした。

ちなみにディオールはブサックに会いに行く途中、たまたま道に落ちていた星形の馬車の部品を拾い上げ、ブランドのラッキーモチーフとして星をシンボルマークにしたと言われている。幸運をつかんだディオールはのちに「すべてがしるし、すべてに意味がある」、「偶然の運というのは常に何かを強く欲している人を助けるためにやってくるものです」と語っている。

開店して1年後、ディオールは初のコレクションとしてコロール・ライン(花冠ライン)と名づけたドレスを発表する。丸みのあるなだらかな肩、細く絞ったウエスト、ゆったりとしたロングスカートのシルエットはマスコミからニュールックと呼ばれ、ファッション界の話題を独占した。ディオールは19世紀末から20世紀初頭のベル・エポック=古き良き時代を念頭に優雅な女性像を復権させようとした。

しかし戦後の物資不足のなかで生地を贅沢に使ったニュールックは貧乏なくらしに慣らされた庶民の格好の標的となる。たちまち抗議運動が巻き起こり、ニュールックを身にまとった貴婦人が街かどで服を切り裂かれる騒動となった。

その反面、アメリカではフランス的エレガンスに憧れる女性たちから圧倒的に支持された。バイヤーたちは海を渡り、洗練されたドレスを求めて殺到した。

勢いのついたディオールは1948年、オートクチュールに加え、プレタポルテ(高級既製服)やアクセサリーを扱うクリスチャン・ディオール・ニューヨークを開設。翌年ファッション・ブランドとして初のライセンス事業を開始する。新たに靴下会社と契約し、ディオール・ブランドのナイロン

ストッキングの製造を許可。同時に香水部門のバルファン・クリスチャン・ディオールも立ち上げた。

1950年にはネクタイのライセンス生産に着手し、同年フランス最高の榮譽であるレジオンドヌール勲章を授与される。ディオールは名実ともに時代の寵児となっていた。

## 後継者を見抜いた慧眼

1951年、ディオールは自伝『私はクチュリエ』を刊行する。クチュリエとはパリのオートクチュールの男性デザイナーを意味する。

1956年、ハリウッド女優エヴァ・ガードナーの映画コスチュームをデザインして評判になり、翌年には世界的に有名な経済誌タイムの表紙を飾るなどディオールの名声は頂点を極めた。

だが体調の方は不摂生による暴飲暴食で急激に蝕まれていった。1957年10月23日、まだ52歳のディオールはイタリアの保養地で急死する。就寝前、椅子に座ったまま心臓麻痺でひっそりと息を引きとった。

カリスマ的な創業者の突然の死は企業にとって死活的な緊急事態にほかならない。だがディオールは創業10周年の時点ですでに後継者を決めていた。のちにモードの帝王と呼ばれるようになる最初で最後の弟子イヴ・サンローランだ。

ディオールの死後、サンローランは21歳の若さで事実上のトップとなる主任デザイナーに抜擢された。プレッシャーと戦いながら新作コレクションを発表して「偉大なディオールの伝統は継承された」と国内外から絶賛された。

虎は死んで皮を残すという諺がある。年齢や経験にかわりなくサンローランの傑出した才能を見抜いたディオールは世代を超えて持続するブランド・ビジネスの先駆者となった。

1955年、まだ19歳のサンローランを雇い入れたとき、ディオールは彼の母親と会って「あなたの息子を立派に成功させるために雇いました」と無名の青年の将来を約束した。母親はディオールがなぜそんなことを言うのか、そのときはまったく理解していなかった。